

# 大津 歴博 だより

開館20周年記念企画展

## 大津 国宝への旅

2010  
No.81

平成22年10月9日(土)～11月23日(火・祝)



【秘仏開扉】

国宝 木造智証大師坐像（中尊大師） 平安時代 園城寺蔵

普段はもう1体の国宝 御骨大師像とともに、園城寺の唐院大師堂に安置されて秘仏となっています。仏像が多いといわれる滋賀県の中でも、彫刻の国宝は4体しかありません。その4体のうちの2体が、この智証大師像なのです。今回、厳粛な法要の後、特別に開扉されます。県内初公開となるこの機会をお見逃しなく。

中尊大師 展示期間：10/9～10/24

御骨大師 展示期間：11/2～11/23



大津市歴史博物館

## ●「大津 国宝への旅」について

大津市歴史博物館は、本年開館二十周年を迎えます。それを記念した企画展を今秋開催します。ご覧いただく作品は、実に、国宝三十五点、重要文化財五十五点を始めとする、大津ゆかりの名宝一五〇点余。それはもう、当館始まって以来、いまだかつてない規模になります。公開させていただく国宝の主なものとしては、園城寺（三井寺）に伝わる、円珍の遺骨を納めた御骨大師像と中尊大師像。ともに、我が国肖像彫刻の白眉と評価されています。同じく園城寺伝来で、円珍が修行中に感得した金色不動明王を画工に描かせたとされる、日本三不動の一つ、黄不動尊（いずれも県内初公開）。

また、延暦寺に伝来した、最澄の唐（中国）留学時代のパスポートである伝教大師入唐牒や最澄自筆の天台法華宗年分縁起。石山寺第三代座主淳祐（しゅんゆう）が書いたお経に、高野山奥の院に入定する弘法大師の芳香がうつたとされる薫聖教（おいのしょうぎょう）、浄土教絵画の至宝で、地獄絵の最高傑作とされる、聖衆来迎寺伝来の鬼気せまる六道絵（全十五幅のうち十三幅を一挙に展示）。右に挙げた国宝や、重要文化財等のほか、それら文化財に匹敵する意義をもつ未指定の彫刻、絵画、工芸作品も、数多く大津に伝わっており、そうした作品も一堂に展示させていただきます。そのことによって、大津の持つ底知れない「文化力」を、皆さんに感じ取っていただければ幸いです。決してお見逃しのないように!! 是非ともご来館ください。

主 催：大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・京都新聞社・文化庁  
共 催：湖信会 協力 数珠巡礼会・びわ湖百八霊場会  
後 援：NHK大津放送局・BBCびわ湖放送・エフエム京都  
観覧料：一般 一、〇〇〇円（八〇〇円） 高大生 五〇〇円（四〇〇円）  
小中生 無料

※一内は前売・団体（十五名以上）、大津市内在住の六五歳以上の方、障害者の方の割引料金。  
休館日：毎週月曜日（十月十一日を除く）、十月十二日、十一月四日

## 【珠玉の古文書と大津ゆかりの祖師】



国宝 天台法華宗年分縁起 最澄自筆 平安時代 延暦寺蔵

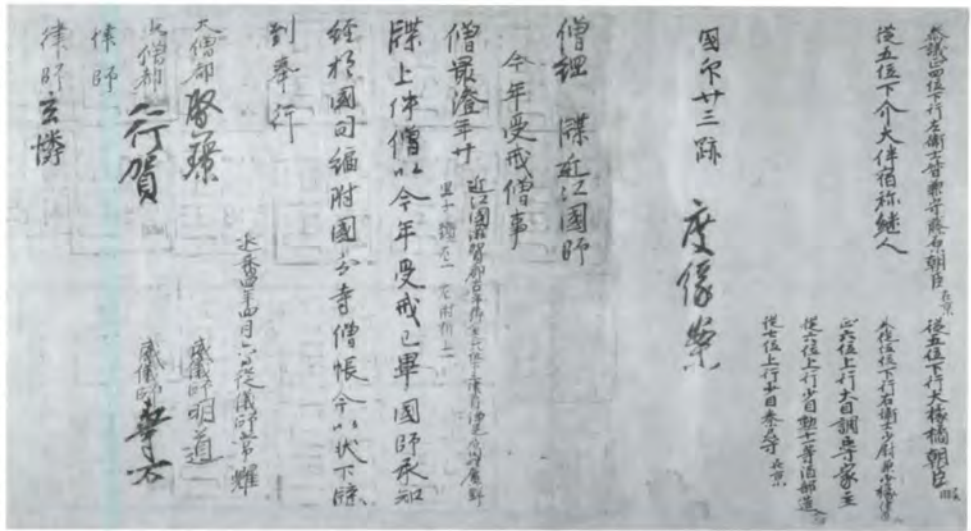
難しい内容ですが、二行目の文章は、「国宝とは何物ぞ。宝とは道心なり。道心有る人を名づけて国宝となす」という有名な一文です。

展示期間：10/9～11/3

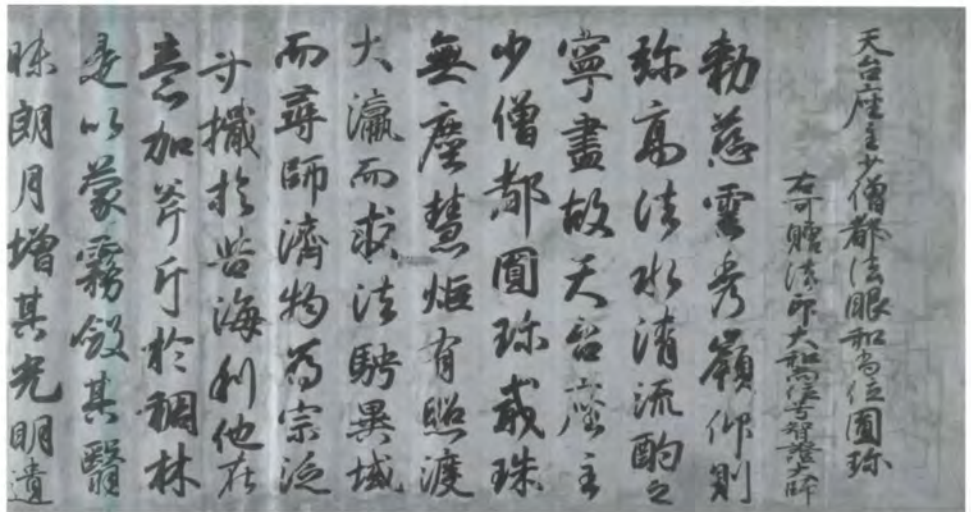
### 企画展担当者からのメッセージ

大津市に伝わる文化遺産は、質量ともに日本有数といえます。大津ゆかりの国宝や重要文化財は、その内容において、歴史的都市京都や奈良に負けてはいません（文化に勝ち負けとは恐縮ですが）。近年、新たに大津に転入された方々にも、もちろん以前から大津にお住まいの方々にも、「我が郷土」に誇りを持てるような、そして、その誇りを他都市に「自慢」できるような企画展にしたいとの一念で、頑張ってきました。さてさて、その成果や如何に！皆さん、ご期待のほどを!!

※いずれも特別出品の秘宝のため、恐縮ですが展示替えをさせていただきます（写真解説に注記）。詳しくは大津市歴史博物館までお問い合わせください。



国宝 伝教大師度縁案並僧綱牌 奈良時代 京都市・来迎院蔵  
最澄の年令や俗名、黒子（ほくろ）の位置などが記されています。  
展示期間・11/5～11/23



国宝 円珍贈法印大和尚位並智証大師謚号勅書  
平安時代の「三蹟」と称された小野道風（みちかぜ）の書。書道勉強中の方にも、必見の作品。  
展示期間・10/9～11/3



重要文化財 石山寺縁起 鎌倉～室町時代 石山寺蔵  
名刹石山寺の縁起を絵と文章で綴った絵巻物。写真は、いま話題の瀬田唐橋が描かれた部分（第5巻）。展示では1～3巻も展示替えてご覧いただけます。展示替え有り。

【工芸と歴史資料】



重要文化財 水晶舍利塔 鎌倉時代 実蔵坊蔵

白水晶で出来ている五輪塔形式の舍利容器です。下から地（方形）・水（球形）・火（四角錐）・風（半球）・空（宝珠）となりますが、なぜか火輪が一つ多い。不思議ですね。

【み仏の祈り 仏像の美】



重要文化財 木造阿弥陀如来化仏  
平安時代 西教寺蔵

西教寺のご本尊、丈六（約2m半）の木造阿弥陀如来坐像の光背に付属する化仏（けぶつ）です。化仏はいわば分身ですから、ご本尊とそっくりです。

【不動明王】《前期》



重要文化財 絹本著色不動明王二童子像  
鎌倉時代 明王院蔵

葛川の明王院に伝来した「青不動」です。中心に不動明王を大きく表し、右にかわいらしい矜羯羅（こんがら）童子と、左にはにくたらしい顔をした制吒迦（せいたか）童子とを配しています。

展示期間：10/9～10/31

【顕教の美】《後期》



重要文化財 絹本著色弥陀三尊二十五菩薩来迎図  
鎌倉時代 安楽律院蔵

極楽から阿弥陀如来と諸菩薩が迎えに来ている図です。楽しそうに楽器を演奏する菩薩や往生者の魂をのせる蓮台を持つ観音菩薩も描かれています。

展示期間：11/2～11/23

【秘仏開扉】



国宝 絹本着色不動明王像（黄不動尊） 平安時代

圓城寺蔵

単独で描かれた世界最古の不动明王の画像です。三井寺の秘仏中の秘仏として、通常は封をしていて拝することが出来ません。今回県内で初の公開となります。滋賀県国宝絵画4件のうちの1件。※秘仏中の秘仏のため、写真は冷泉為恭筆の江戸時代の模写  
展示期間：10/9～10/31



国宝 紙本墨画五部心観（完本） 唐時代 圓城寺蔵

両界曼荼羅のうち、金剛界曼荼羅を描いたもので、円珍が唐より将来しました。インドの密教僧「善无畏」の姿や曼荼羅の筆致はエキゾチックです。唐時代の曼荼羅はほとんど現存せず、世界的な至宝といえます。滋賀県国宝絵画4件のうちの1件。

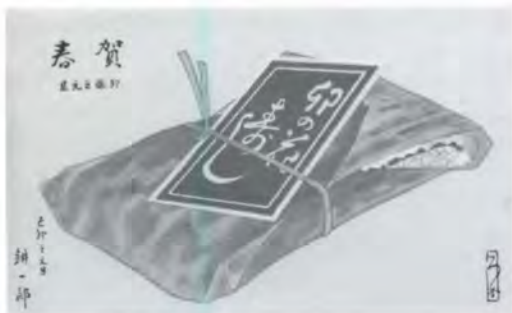
展示期間：10/9～10/31

第八十七回「三企画展」

昭和十四年卯年の年賀状

平成二十二年十二月三十日（火）～平成二十三年二月十六日（日）

毎年、年末年始に行なっている、大正・昭和の趣味家（コレクター）による年賀状の展覧会です。今年の展示作品は、昭和十四年卯年の年賀状。時節柄、戦勝を祈願する図柄や文字が目立ちながらも、趣味家特有の愉快で楽しい年賀状に仕上げられています。彼らが毎年、年賀状交換会という催しのために、知恵を絞った木版年賀状の数々から、洒落や見立ての世界を存分にお楽しみください。





天道歓楽図



閻魔庁図

【六道の世界】 国宝 絹本著色六道絵 鎌倉時代 聖衆来迎寺蔵

我々が死後に生まれ変わるという「六道」。そこから抜け出せない「輪廻転生（りんねてんしょう）」の世界を描いています。特に地獄の風景は凄惨で、我が国の地獄図の最高傑作といわれています。写真右の「閻魔庁図」は、六道に行く前に中陰で閻魔王の裁きを受けている図。生前の様子を写す「業鏡」の前では嘘をついても無駄。写真左の「天道歓楽図」は六道の最上位「天道」で、幸せそうな世界ですが、ここでも確実に老いや死はやってきて、やはり六道輪廻から逃れられません。今回、全15幅のうち13幅をずらっと展示します。著名な恐ろしい地獄図の数々を、ぜひナマでご確認ください。滋賀県国宝絵画4件のうちの1件。

展示期間：11/2～11/23 ※「人道四苦相図」のみ11/16～11/23

大津歴博だより No.81  
平成22年8月31日

大津市歴史博物館  
〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎(077) 521-2100  
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>